

授業の玉手箱

対義的な諺の活用

中垣 芳隆

思わしくないことが続くと One loss brings another. (二度あることは三度ある) と嘆き、事態好転、逆転ホームランとなると The third time pays for all. (三度目の正直) と喜ぶ。私たちは、意識的にあるいは無意識のうちに、人口に膾炙した真逆の意味合いを持つ諺をその場に応じて使い分け、自分に言い聞かせ納得させているようです。

洋の東西を問わず、諺は人々の英知の結晶です。長い間の経験に裏付けられた真理や教訓、あるいはユーモアが、短く、人情の機微をついた形で、日常生活のあらゆる機会に引用されています。

生徒の Vocabulary を増やす手段として対義語 (Antonym) がよく活用されますが、人生の正解は一つではないことを、一歩進んで対義の意味合いを持つ諺を通して感じさせるのも授業のちよつとした spice になるかも知れません。

対義の意味合いを持つ諺を2、3拾い上げてみますと

Haste makes waste. (急いで事はし損じる)

It is good to make hay while the sun shines. (善は急げ)

Nothing comes of nothing. (蒔かぬ種は生えぬ)

Everything comes to him who waits. (果報は寝て待て)

日本人は、勝ち組・負け組という物言いに表されるように、一般に白か黒か、善か悪かと二者択一的にどちらかに決定しないと気のすまない国民であるといわれます。しかし、人生とはそんなに簡単に割り切れるものではないことを、先生方それぞれの経験を Proverbs を通して語られると、生徒達の価値観に新たな刺激を与えるのではないのでしょうか。

書籍紹介

“I am Malala: The Girl Who Stood Up for Education and Was Shot by the Taliban”

Malala Yousafzai, Christina Lamb (2013)、Weidenfeld & Nicolson、¥1,825 13.99 ポンド

女性が教育を受ける権利を訴えて、イスラム武装勢力に銃撃された 16 歳の少女マララ・ユスフザイさんの手記。

Prologue: The Day my World Changed は次のように始まる。

I come from a country which was created at midnight. When I almost died it was just after midday.

One year ago I left my home for school and never returned. I was shot by a Taliban bullet and was flown out of Pakistan unconscious. Some people say I will never return home but I believe firmly in my heart that I will. To be torn from the country that you love is not something to wish on anyone.

Now, every morning when I open my eyes, I long to see my old room full of my things, my clothes all over the floor and my school prizes on the shelves. Instead I am in a country which is five hours behind my beloved homeland Pakistan and my home in the Swat Valley But my country is centuries behind this one. Here there is any convenience you can imagine. Water running from every tap, hot or cold as you wish; lights at the flick of a switch, day and night, no need for oil lamps; ovens to cook on that don't need anyone to go and fetch gas cylinders from the bazaar. Here everything is so modern one can even find food ready cooked in packets.

This book will make you believe in the power of one person's voice to inspire change in the world. 金原瑞人、西田佳子 (2013/12/3) の訳本として『わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』が発行された。

(中井 弘一)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習3」 平成 25 年度講習

平成 26 年3月8日(土) 9:10 ~ 16:40

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

「言語文化としての英語表現－英語の発想・日本語の発想と生き生きとした英語表現活動一」

・「生の英語表現」－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・「生き生きとした英語表現活動」－日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい－

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

■ 講座のねらい

本年度から高等学校では「英語表現」という科目が英語授業に導入されているが、その教科書は文法解説と和文英訳の域に留まっているように思われる。

本来、英語を学ぶということは、英語圏の文化と思想を学ぶことであり、異なるものの見方を身につけることを通して世界を別の観点から読み取ったり把握したりすることでもある。英語教育においてコミュニケーション活動の重要性が一層増している中、英語表現を通して意味のあるコミュニケーションを行うための基盤的な言語文化の理解を深めることを本講習の目的とする。

第一部では、国際社会の様々な場面をとらえ、メディアを介して私たちが接することのできるいわゆる「生の英語表現」を取り上げる。そこでは、どのような英語表現が使われているのか、どのような情報やメッセージを伝えようとしているのか、そして背景にどのような文化や発想の違いがあるのかを考え、言語と文化の関係性や言葉の力を理解するとともに、「生の英語表現」を学ぶ喜びを引き出すヒントにしたい。第二部では、「英語という言語を知る」を基調テーマに、「発音・音読による英語表現」、「日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい」、「英語で表現する楽しみ・創作表現活動」など英語教室での実践的な活動を取り上げ、ワークショップ形式を通して「英語表現」という言語文化を体感しながら、明日の授業を展開するための基盤構想力の育成に努める。

■ 定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名
(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

■ 受講方法

○ 受講申し込み受付

平成 25 年 12 月 16 日(月)より 2 月 21 日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当 (ttc@wilmina.ac.jp) へお申し込みください。

○ 受講料 5,000 円 (所定の口座へ振り込み)



編集後記

1 年経つのがとても早く感じる。You can't turn back the clock, but you can wind it up again. である。時間は取り戻せないが、もう一度ねじを巻いて新しい年を starting over しなければならない。小学校での早期英語教育実施の検討、中学校でも英語の授業は英語で行うなどと、日本の英語教育には旋風が吹き荒れている。こういう時こそ、しっかりとした教育哲学をもって日々を迎えたいと思う。しっかりねじを巻き直して頑張りましょう。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp